

氏名	西坂 紳吾	現任校	浜頓別町立浜頓別小学校（宗谷）	前任校	滝上町立濁川小学校（オホーツク）
----	-------	-----	-----------------	-----	------------------

## ○地域・学校の様子

### 1 浜頓別町について

浜頓別町は、宗谷管内の南宗谷地域に所属し、オホーツク海沿岸に位置している。周囲約 27 km のクッチャロ湖は日本で 3 番目にラムサール条約登録湿地に指定され、自然豊かな環境に囲まれている人口約 3,600 人の町である。



### 2 浜頓別小学校について

浜頓別小学校は、明治 41 年に斜内教育所所属頓別第一特別教授所として開校し、現在は普通学級 6 学級、特別支援学級 3 学級、計 9 学級、児童 129 名が在籍している。教育目標「考えを深め合う子 思いやりのある子 ねばり強くやりぬく子」を基に、「すべての子どもが学ぶ愉しさを感ぜられる学校づくり」をスローガンとして地域・保護者・児童・教職員が一丸となって教育活動にあたっている。

### 3 本年度の研究内容について

今年度は「伝え合い、深め合う子の育成」を研究主題に、学びの共同体の実現を目指している。見通しをもつことができれば最後まで頑張ることができる。間違いや失敗を恐れて自己表現ができない。基本的な学力不足により深め合うことまで到達できないといった児童の実態を踏まえ、共に学び合う学習環境・指導方法の改善を実践することで研究主題に迫っている。

## ○現任校での勤務状況

5 年 1 組担任（児童数 16 名）校務 分掌：研究部

これまでの大規模校・複式学級での指導経験を生かし、未熟ながら日々教育実践を行っている。「だるい…」「勉強嫌い…」学習意欲に課題を抱える学年集団ではあるものの、4 月からの 6 か月間で成長を遂げてきた。学びの共同体の実践に管理職をはじめ多くの先輩教諭に助言をいただき、試行錯誤しながらの指導方法の改善を行っている。どの学校・児童においても共通する重要なことは「指導内容の明確さ」である。明確な課題、身につけさせたい力を見据えて授業を組み立てることで、「わかった!」「できる!」そして最も大切な「できるかもしれない!」という、児童の自己肯定感を育むことを心掛けることができた。コロナ禍で教育課程が逼迫する現状、指導内容の工夫・改善は昨今より求められていることがひしひしと感じられる。

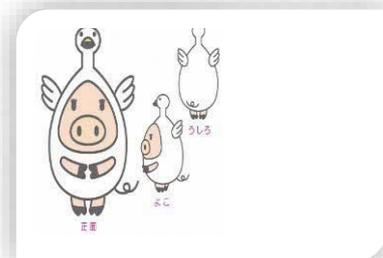


## ○生活の様子

生活必需品は浜頓別町内のドラッグストアやスーパーマーケットで購入することが可能である。枝幸町や稚内市、名寄市・旭川市に買い物に出かけることもある。

## ○その他

浜頓別町マスコットキャラクター『スワットン』愛嬌溢れるキャラクターをぜひ web でチェック!!



氏名	相澤 紗香	現任校	雄武町立雄武中学校 (林ヶ崎)	前任校	鹿追町立鹿追中学校 (十勝)
----	-------	-----	-----------------	-----	----------------

## ○ 地域・学校の様子

雄武町は、オホーツク管内で最北・最西に位置しており、漁業と酪農業を主幹産業としている町です。

勤務先の雄武町立雄武中学校は、町内4つの小学校（雄武小、共栄小、沢木小、豊丘小）から入学してきます。今年度は、全校生徒104名、学級数6（特別支援学級3を含む）1学年1学級の単学級の学校です。

職員構成は、前年度までは本校を1校目とする初任段階教諭（期限付教諭を含み）が多い学校でしたが、今年度の人事異動により、経験豊富な先生方も増えており大変心強い職場です。



## ○ 現任校での勤務状況

現在、特別支援学級（言語学級）の担任をしています。交流学級の教科指導は持たず、特別支援専任として勤務しています。前任校でも特別支援学級を担当していましたが、交流学級での教科の授業も担当していたため、専門教科の指導をする機会がないことに戸惑いが当初はありました。

しかし、特別支援学級の生徒と関わる時間が多いため、その生徒たちに癒されながら過ごしています。支援学級の生徒一人ひとりの特性に合わせた教材研究などを支援担任と相談し合い、進めています。

校務分掌では、研修部を担当しています。十勝管内での経験を生かしながら、月に1度の校内研修では、先生方に「研修をやってよかった」と思ってもらえるように計画を立てて実践しています。研修会後には、即実践してくれる先生方も多く、同僚性の高さを感じています。本校在職中に教科経営に活かせる校内研修のサイクルができたかと考えています。

部活動指導では、卓球部の副顧問をしています。部活動もスクールバスの関係で限られた時間で生徒たちは取り組んでいます。技術面の指導はできていませんが、外部指導者のご協力を得ながら、生徒の活動をサポートしています。

## ○ 生活の様子

今までは、24時間スーパーや文房具店や夜間診療の病院などが近くにありました。今までの暮らしが便利すぎたことに改めて気づきました。しかし、雄武町内には、スーパーやコンビニもあり、紋別市へも40分ほどで行けます。今のところ、生活していく上での不便さはあまり感じていません。なにより、魚介が安価で美味しいです。もちろん、学校給食も魚料理が豊富で美味しく驚いています。

## ○ その他

雄武中学校とこれまでの職場との違いとしては、「desknet's」や「C4th（校務支援システム）」といった情報共有ツールを活用していることです。日報がなく職員の動向などは、「desknet's」のスケジュールで確認することができます。

また、回覧レポートを誰が確認したのかが把握でき、コメントを返信してもらいたい文書についても確認することができます。

当初は、「人数が少ないから直接伝えたらいいのに…」と思うところもありましたが、事務的な話ではなく、生徒に関する話ができるというメリットがありました。

そして、ペーパーレスで環境に優しく文書の管理ができます。そのため、朝の打ち合わせも週に2回。それも端的な運営。全教職員で「つく指導」を徹底しており、道徳・学活（短学活を含む）・総合・行事や給食指導などは、学年単位で教員がついて指導しています。生徒の近くで寄り添い、生徒との時間を大切にしている職場です。そのため職員室には、ほぼ職員がおらず、このようなツールの活用は有効だと感じました。



私は、広域人事のお話を聞き、故郷であるオホーツク管内での勤務を希望しました。中学校教諭として採用になるまで、高校の実習助手として全道各地で勤務していました。そのため、様々な土地で勤務し生徒や保護者の皆さんや先生方と出会い、それぞれの土地で学ばせてもらいました。

今回の広域人事も、知らない土地で新たな出会いがあり、とても刺激的で驚きや発見もありました。管内での勤務にこだわらず、多くの方に機会があるのであれば、管外の学校を勤務して「新しい刺激」を受けるのもオススメです。長く地域に根をはることも大切ですが、様々な環境の中で勤務することも自分自身の成長につながるとともに、子どもたちに還元できるのではないかと思います。

自分のライフステージについても検討をして、今回この制度を希望してよかったと思っています。

氏名	大城 卓也	現任校	釧路市立昭和小学校（釧路）	前任校	別海町立別海中央小学校（根室）
----	-------	-----	---------------	-----	-----------------

### ○地域・学校の様子

釧路市は、北海道の東部、太平洋沿岸に位置し、「釧路湿原」「阿寒摩周」の2つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれた街であり、東北海道の中核・拠点都市として、社会、経済、文化の中心的な機能を担っています。本校は昭和54年4月に開校し、今年42年目を迎え、全校児童68



9名、学級数26（うち、特別支援学級6）と管内でも最大規模の学校です。北海道教育委員会が実施している「学校力向上に関する総合実践事業」の学校指定として、管理職のリーダーシップの下で全職員が一つのチームとなり学校改善を推進し、日々実践しています。校舎北側には約2haもの学校林が広がり、ビオトープとして昆虫観察や野草観察など自然体験活動に利用しています。また、毎年6月から10月まで牧場より羊を借用し、1年生や委員会活動を中心に飼育のお世話をしています。羊の飼育を始めとする多くの場面でボランティアによる協力していただき、保護者・地域とともに子どもたちの教育に力を注いでいます。

### ○現任校での勤務状況



今年度より本校に異動し、第5学年の学級担任としてスタートしました。1クラス30名前後で4学級ある学年ですので、学年の先生方と日々授業や児童の様子などを共有し合いながら日常の指導に当たっています。周囲の先生方と情報を交換し合いながら指導していくことができることは、大規模校ならではの良さだと感じています。

校務分掌では研修部を担当しています。今年度は、活発な研修を満足に行うことが難しい状況でもありましたが、高学年部会での研究授業に向けた指導案検討や日常の授業改善に向けた取組について研修を行うことができました。また、研修部内のICT担当も務めており、GIGAスクール構想やICT関連の研修にも参加させていただき、本校での実践に還元できればと考えています。他管への異動1年目ということもあり、勝手の違うことへの戸惑いもありながらも周囲の方々にサポートしていただきながら日々を過ごしています。今後は、学校運営を支える一員として何ができるか、目の前の子どもたちのために何ができるかをしっかりと見据え、力を発揮していきたいと思えます。

### ○生活の様子

道東地域の中心都市であるとともに、自身も大学時代まで過ごした街であるため生活面はとても充実しています。居住地の周辺には多数の飲食店や商業施設などもあり大変便利です。公共施設も充実しており、大きな図書館は生活にも学校での指導にも生かせるため大変助かっています。

### ○その他

今回広域人事で他管に異動することによって、発見したことがありました。1つ目は、自分自身がこれまでに積み上げた多くの経験は生かされていくということ。よい経験も失敗した経験も含めて、今後の教員人生において大切だということです。2つ目は、常に学び続けていくことの大切さです。周囲の環境や見方・考え方が変わることによって、これまで気付くことがなかった新たな視点から物事を捉えることができました。互いの考えを伝え合うことで自らの力を高めていくとともに、管内外の交流もより一層深まればと考えています。

氏名	須河 浩美	現任校	羽幌町立天売小学校（留萌）	前任校	寿都町立潮路小学校（後志）
----	-------	-----	---------------	-----	---------------

### ○地域・学校の様子

羽幌町は留萌振興局管内にあり、天売島・焼尻島という2つの離島をもつ人口約7000人の町です。そのうち天売島には約300人、焼尻島には約200人の人々が暮らしています。それぞれの島には小中併置校があります。また、天売島には定時制高校があり、全国から生徒を募集しています。



<天売小学校 校舎>

私が勤務する天売小学校は全校児童12名、併設の中学校は生徒1名の極小規模校です。児童生徒育成スローガン「かがやき のびよ 天売っ子」を掲げ、学校・保護者・地域が連携し、指導に当たっています。児童は素直で明るく、兄弟関係も多いので、学年に関係なく全員で仲良く遊ぶ様子が見られます。

### ○現任校での勤務状況

教職員数は12名で、小中が同じ職員室のため教職員同士の交流がしやすく、気軽に何でも話せる雰囲気があります。様々な情報を全教職員で共有し、全児童生徒一人一人に対してきめ細かい指導をしようという意識が高い学校です。

また、給食や掃除は、全児童生徒を縦割りグループに分けて行うなど、担任する学級以外の児童生徒と接する機会が非常に多いのも本校の特徴です。

今年度、私は1, 2年生5名を担当していますが、体育と音楽は中学校教員の乗り入れによる教科担任が指導をしています。行事には、児童生徒、教職員はもちろん、保護者、地域も一体となって取り組みます。特に「島民大運動会」は、島民参加の競技も多く、島をあげての一大行事です。



<天売島 赤岩>

### ○生活の様子

島内にはスーパーやコンビニなどはありませんが、郵便局、診療所その他、食料品や日用雑貨などほとんど何でも揃う商店が2軒あります。そのため、通信販売なども上手に利用すると、不便さを感じることなく生活できます。

北海道本土との往来の手段はフェリーと高速船に限られ、天売港から羽幌港までは焼尻島を経由して約95分です。天候や波の状況によって欠航することもあります。長く続くことは稀です。

### ○その他

「広域人事（離島交流人事）」を希望するに当たり、今まで多くの学校を経験してきましたが、初めての離島という環境に不安でいっぱいでした。しかし、着任の際、天売港でその不安はすぐに消え去りました。先生方はもとより、地域、保護者の方々が私の名前が書かれた歓迎ボードと大きな横断幕を持って待っていたからです。あの感動は今でも忘れられません。温かく迎えていただいた雰囲気は、そのまま児童生徒にも向けられており、こんなに恵まれた環境で働くことができたことは、かけがえのない経験です。離島交流人事に興味を持っている方はぜひ、前向きに検討してみてください。

氏名	伊藤 ちえこ	現任校	利尻富士町立利尻小学校（宗谷）	前任校	帯広市立森の里小学校（十勝）
----	--------	-----	-----------------	-----	----------------

### ○地域・学校の様子

利尻島は、北海道の最北端に位置する自然豊かな離島です。海も山もとっても身近に感じられる、漁業・観光の島です。

利尻小学校は、島の玄関口鴛泊から車で20分ほど離れた鬼脇地域にあります。明治19年に開校した島で最も長い歴史を持つ小学校です。現校舎は、2年前に建てられたきれいな学校です。1年生6名、2年生7名、3年生8名、4年生3名、5年生7名、6年生5名の計36名の小規模校で、3年生以上は2学年ごとの複式学級となっています。（へき地5級）

また、鬼脇中学校との併設校でもあります。各学校行事や日常的な清掃活動なども、小中縦割りの活動を取り入れ、小中一貫を感じられることが特徴です。



### ○現任校での勤務状況



今年度は、1年生6名の担任をしています。初めての少人数学級ではありますが、個性豊かな子ども達。授業中も休み時間も、話したくて仕方がない子が多く、人数の少なさを感じないほどです。

分掌は、教務部・道徳教育推進教師です。若い先生方の多い学校・部会なので、負けずに元気に、そして、少しでもこれまでの経験を伝えることができればと思って取り組ませていただいています。

### ○生活の様子

朝、出勤時には、海を見て山を見て1日の始まりです。通勤は車で2分ほど。もちろん歩いて通勤する方も多いです。近くにはコンビニがあり、島の中には、車で20～30分ほど離れていますがドラッグストアやホームセンターもあるので、生活に困ることはありません。ですが、悪天候によりフェリーが欠航になってしまうこともあるため、簡易食品を備蓄しておく必要があります。

熊も鹿もキツネもいないので、休日には安心して山登りやキャンプを楽しむことができます。



### ○その他

管内が変われば、仕事の仕方も変わりますが、どんな学校でもどんな地域でも教員としてやるべきことは変わりません。教材は、手軽に手に入れることはできないし、注文してもすぐには届きません。前もって計画し、島を出る時に調達しなければいけません。大きな学校とは違い、教材も十分にそろっているわけではないですが、この不便さを楽しみに変えて、教材研究をさらに進めていきたいと思っています。

氏名	中松 あづさ	現任校	利尻富士町立鴛泊中学校(宗谷)	前任校	雨竜町立雨竜中学校(空知)
----	--------	-----	-----------------	-----	---------------

### ○地域・学校の様子

稚内からのフェリーが島に近づくにつれ、海の中に聳え立つ利尻山の姿に心が躍りました。利尻山は標高1,721m。日本百名山としても有名で、毎年多くの登山者が訪れる人気の山です。春は利尻山の残雪がまぶしく、山の美しさを一段と引き立たせてくれます。(北海道銘菓「白い恋人」のパッケージにプリントされた美しい冬山の写真が利尻山) 夏は特産物である利尻昆布やバフンウニの漁があり、海の恵みに島が活気づく季節です。秋は山でキノコ採り、海ではアワビ漁が始まり、なんと港で鮭が釣れるんです。私が勤務する鴛泊中学校は、鴛泊地区にあり、利尻山の登山口から海に向かって約3キロ、海拔は24mで利尻島の中では高台にあります。隣接する運動公園には、サッカー場、野球場、陸上競技場があり、学校行事や授業に利用することができます。生徒数は50名。明るく活発な子どもたちが多く、部活動や学校行事に元気に取り組んでいます。今年度は6月までの臨時休校時、管内でもいち早くICTを活用したオンライン授業や、ZOOMでのL I V E授業、クラスミーティングなどを行い、子供たちの自宅学習をサポートしました。また、全教職員で分担し、学年の枠を超えた個別最適化(つまづき)に応じた数学科の少人数コース別授業を実施しています。

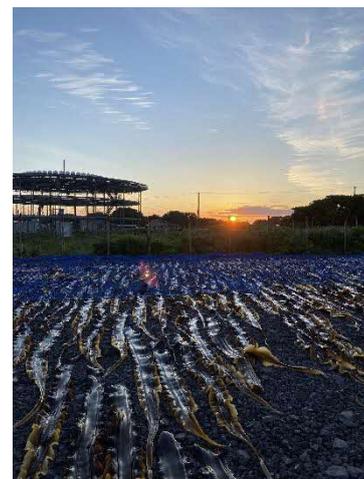


### ○現任校での勤務状況

今年度から支援学級が増設され、私は情緒学級の担任と全学年の美術科を担当しています。生徒の実態に合わせて5教科は個別で対応し、T2として授業に入っています。通常学級と同じ広さの教室は少しガランとしていますが、休み時間には同級生が遊びに来たり、放課後は生徒会のミーティングルームとしても使用されたりしています。校内分掌は生徒指導で、部活動の担当をしています。島内には中学校が3校ありますが、それぞれの学校で部活動の数や内容が違うので、練習試合ができず島を出なくてはならないこともあります。中体連も管内大会に参加する際は、ほとんどが泊を伴う小旅行です。教職員は15名。年齢層が幅広いので、いろんな意味で刺激的です。中でもICTの研修は、私にとっては新しい内容ばかりでついていくのが大変です。でも、丁寧に根気よく教えていただいています。

### ○生活の様子

利尻島には利尻空港があり、札幌丘珠まで約50分。(島を車で1周するより早いかも。) コンビニは3軒、ドラッグストアやホームセンター、商店も多いです。食料品は新鮮なものが常にフェリーで運ばれてきます。夏は昆布干しを手伝ったり、山に登ったり、釣りをしたりと、利尻でしか出来ないことをさせてもらっています。週末は、伏流水「霊峰湧水」や、湧水「甘露泉水」に行つて水を汲み飲料水にしています。おいしい水です。



### ○その他

私は、初任者の時に離島で働きたいと思っていました。あれからどのくらいたったのでしょうか。想像以上に忙しい毎日の業務に追われ、そんな気持ちをもっていたことすら忘れてしまっていました。離島人事交流が始まって、大昔の思いを遂げたくなり、今日があります。初心にかえて自分自身と向き合う毎日です。みなさんいかがですか？

氏名	熊谷恒平	現任校	利尻富士町立鬼脇中学校(宗谷)	前任校	根室市立海星中学校(根室)
----	------	-----	-----------------	-----	---------------

### ○地域・学校の様子

利尻島はウニと昆布で有名な離島で、例年多くの観光客が来島しています。地域での行事も多く、様々な場面で楽しめる機会が多いです。綺麗な景色がたくさん見られることはもちろん、釣りや登山などさまざまな楽しみ方のできる土地です。



利尻島には利尻富士町と利尻町の2町があり、利尻富士町には小学校2校、中学校2校があります。鬼脇中学校は、利尻島で一番最初に設置された小学校である利尻小学校との小中併置校です。全校児童生徒は49名で、うち中学校生徒は13名です。人数は少ないですが、生徒同士の仲も良く、日常での

縦割り活動や全員が加入しているバドミントン部の活動も活発に行われています。校舎は平成30年に建てられたばかりで新しく、綺麗で暖かいです。職員は小中全体で21名いますが熱心な方が多いです。島外へ出かけた際にフェリーの欠航等により帰れなくなることもあります、生活上仕方ないこととして寛容で穏やかな方が多い印象です。

### ○現任校での勤務状況

現在は中学校2年生の副担任をしています。教科は全学年の理科を担当し、小学校6年生への乗り入れの授業もしています。複式学級のある学校のため職員定数が少なく、免許外の教科の指導も必要な場合があります、昨年度は技術科の指導もしていました。部活動は1つしかないので、全員の教師で協力しながら顧問をしています。校務分掌では教務を担当しています。今年度はコロナ禍で休校が続きましたが、オンライン朝の会やビデオでの授業配信等を通して生徒の学習をサポートすることができました。若い先生も多いですが、先生方が協力しアイデアを出し合いながら改善を進めることができる良さを実感しています。

### ○生活の様子

地域の徒歩圏内にコンビニや商店があり、島内にもホームセンターやドラッグストアがあり、生活する上で大きな支障はありません。稚内までフェリーで1時間40分程度、札幌まで飛行機で1時間程度であり、離島の中ではかなり交通の便に恵まれているのではないかと思います。フェリーの欠航が続くと物資が島内に入ってこないことなども何度か経験すれば大きな不便とは感じません。

### ○その他

離島交流人事2年目となりました。あいにく今年度はコロナ禍により制限される活動も多くありましたが、町内ではオンライン授業に関する研修が行われ、校内でも早い段階で取り組みをスタートし、年間の教育課程の指導に見通しをもつことができました。町教委の支援や町内学校での協議を通して、困難に向かうことができた経験は大きな財産になったと感じています。

他管内に身を置くことで様々なちがいに気付いたり、刺激を受けたりすることができ、今後の教職員としてのライフサイクルにより影響を与えたいと思います。